

へ自分にかつ、なんて自分とけんかすることなのかな。でも、自分が自分とけんかするなんて、すこし変だな。〳

と、四郎は思ったのですが、思わず、

「はい、わかります。」

と言ってしまった。

「そうか。わかるか。でも、これはむずかしいぞ。相手とけんかしたがっている自分の心を、自分でおさえつけるのだ。相手と戦う前に自分と戦って、自分にかつ。どうだ、約束できるかな。」

ことはやさしいけれども、背ぼねをきちんとのばしてすわっているおじいさんの、するどい目を見ていると、四郎はそれにさからうことはできませんでした。

へそうだ、おれは、あのおじいさんの目と約束したんだ。おじいさんの目は、